



小村崎地区にある奥平家住宅は、江戸時代後期の文化3年(1809)に建てられた茅葺き民家で、今年で築210年を迎えます。往古より地域の顔役を務めてきた家柄の居宅にふさわしく、大型で柱や梁も太く造作も巧みですが、長い年月の間に蓄積された傷みや劣化に加え、東日本大震災によって建物全体が傾き倒壊の危険が生じていました。これに対処するため、平成30年10月から翌年2月までの期間で、建物の歪みや傾きを取り除く応急修理工事を実施しました。事業費は886万9千円で、町・県・所有者及び文化財保護芸術文化助成財団が資金提供しました。また、施工は、伝統建築物を専門的に手がけ、瑞巖寺や大崎八幡宮など国宝級建造物の修理にも携わった実績のある株式会社加藤工匠(山形県)が担当しました。

工事は、まずは壁と床板、建具を取り外し、柱と梁だけの状態にすることから始まりました。その後、



要所の梁と柱に牽引ベルトをかけ、熟練の職人さんが手先にかかる力加減と建物の発する音を頼りに、手作業で少しずつ建物の傾きを修整していきました。一度に数ミリ修正しては数日間放置して馴染ませることを繰り返し、最大で6～7度ほども傾いていたものを2ヶ月ほどかけて修整しました。

建物の傾きを修整した後、今回の工事で最も重要な柱の補修に取りかかりました。建物の縁の下には、

柱の根継ぎと並行して、床板を支える部材の修理も行ないました。特に建物背面に近い部分では腐朽が激しいものも多く、端材を差し込んで高さや長さを調整する必要がありました。床下の部材の修整が済んだところで床板を戻し入れましたが、これも建物背面に

今回の修理工事は、構造上重要な柱と梁の健全化を主目的としたもので、本格的な復元工事ではありません。このため、江戸時代の奥平家住宅の姿とは一部が異なり、茅葺き屋根・土壁などの復元は今後の課題となります。しかし、倒壊の危険性が取り除かれたことで貴重な文化財が末永く保存される目処が立ったことは、何よりも喜ばしいことです。



5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

2



丈六阿弥陀如来坐像と平沢弥陀の杉(ともに
県指定文化財) 阿弥陀如来は像高288cm、
総高379cm。「丈六」とは、この阿弥陀さまが
起立した時の身長が「一丈六尺(約4.8m)」
であることを示します。当初は檜材の寄木造
で、江戸時代中期の大修理では櫟材が用いら
れました。平安時代末期の開眼時のものとさ
れる頭部と胸板には僅かに金箔の痕跡を残して
います。洗練された都風の顔立ちで、中尊寺
金色堂 基壇の本尊に作風が似ています。
弥陀の杉は幹周約10m、樹高約50m。

平沢地区の高台にある保昌寺境内のお堂に安置
されている阿弥陀さまは、町内最古で最大の仏像です。
正しくは「丈六阿弥陀如来坐像」と言い、平安時代
末期(約950年前)の作とされています。

保昌寺からほど近い丘の麓には「丈六」という地名
があり、推定樹齢900年の大杉がそびえています。
この場所は、かつてこの阿弥陀さまを本尊とした阿弥
陀堂があったところです。大杉はその参道の杉並木の
名残で「平沢弥陀の杉」と呼ばれています。

この地に阿弥陀堂を建立したのは、平泉(岩手県)を
本拠地として東北一円に勢力を広げた「奥州藤原氏」
であると考えられています。奥州藤原氏は死者の魂を
極楽浄土へ導くとされた阿弥陀如来をあつく信仰し、
現世に平和で平等な理想郷—浄土の建設を目指して
平泉の中尊寺・毛越寺・無量光院をはじめ白水阿弥陀
堂(福島県いわき市)や高蔵寺阿弥陀堂(角田市)
など要所に阿弥陀堂を建立しました。これらの阿弥陀
堂はいずれも園池を配した浄土庭園を備えており、
平沢丈六の地に建立された阿弥陀堂も、やはり浄土
庭園を備えていた可能性が高いと考えられます。

文化財
Q&A町内の「指定文化財」や「指定保存樹木」には
どんなものがありますか？

私たちの身の回りに残るさまざ
まな文化財(文化遺産)の中で、歴史・芸術・学術
上の価値と保存の必要性が特に高いとされたもの
が文化財保護法や県・町の文化財保護条例に基づい
て指定され、保護と活用が図られています。

町内の指定文化財には、国指定1件(我妻家住宅)、
県指定3件(刈田嶺神社本殿、丈六阿弥陀如来坐
像、平沢弥陀の杉)、町指定27件(刈田嶺神社拝殿・
随身門、奥平家住宅、高野家文書、願行寺遺跡出
土土偶、神楽6件、民俗芸能2件など)があります。

指定保存樹木は、町内にある名木・古木の中で、
地域のシンボルとして親しまれているものを指定
して保護と活用を図る蔵王町独自の制度です。学術

上の重要性に基づく指定文化財と
比較して、指定保存樹木は地域の皆さんの名木・古木
への親しみや愛着を大切にしながら守り伝え、地域
の魅力として活かすことを重視した制度です。

宮小学校のスズカケ、平沢小学校校庭の松としだれ
桜、鬼子坂の桜、大庄屋のケヤキ、定谷口のイチヨ
ウ、狐塚のサイカチなど、近隣の住民の皆さんにお
馴染みの樹木が現在16件指定されています。

指定文化財や指定保存樹木は、町文化財保護委員
会や教育委員会の審議を経て、必要に応じて新規指
定が行なわれています。未指定の文化財の中にも、
私たちの町の歴史や文化を再認識させる価値を秘
めたものがまだまだ眠っているのです。

※各文化財の詳細は、町文化財ホームページや文化財パンフレットをご覧ください。

文化財トピックス

200年前の暮らしを知る

～平沢小学校3年生が奥平家住宅を見学～

東日本大震災の応急修理工事が完了した町指定文化財奥平家住宅で、3月15日に平沢小学校3年生の校外授業が行なわれました。奥平家住宅が約200年前に建てられた民家で、現在の家と違って石の土台の上に建っていて壁が土で塗られ、屋根が茅で葺かれていることなどを学習しました。また、定期的に行なわれた茅屋根の葺き替えには60人ほどの人が集まって手伝うなど、地域の人びとがお互いに助け合いながら暮らしていたことを聞いて感心した様子でした。



町の文化財情報を発信

～パンフレット&情報ステーションを設置～

町教育委員会が発行している文化財のパンフレットなどを配布したり、イベントのお知らせを掲示する「蔵王町の歴史と文化財 パンフレット&情報ステーション」をございんホールロビーに設置しています。公式ホームページや本紙「どきたん通信」と合わせて学習活動や歴史散策などにご活用ください。



“蔵出し收藏品”を紹介

～ございんホールロビーで月替わりミニ展示～

町教育委員会には、歴史・民俗資料や遺跡出土品などさまざまな收藏品があります。この膨大な資料の中から、文化財担当職員が「これはぜひ見てほしい！」と思う逸品を月替わりで展示しています。これまでに北海道産のアオトラ石で作られた縄文時代の磨製石斧や、岩崎山金山の金鉱石と砂金、昭和30年代まで身近な暖房器具として親しまれた六角行火、電卓が普及する以前に町役場で使われた手廻し計算機などを紹介してきました。

この展示は『生涯学習だより』に連載の「文化財コラム」とも連動しており、コラムで紹介した資料の実物をございんホールのロビーで展示しています。文化財展などでは登場する機会の少ない資料もその魅力をパネルで解説しながら紹介していきますので、ぜひご覧ください。

※展示の内容や期日は『生涯学習だより』(毎月15日頃発行)をご覧ください。

最新の情報はWEBでチェック!!

蔵王町の歴史と文化財 公式ホームページ

どきたんドットコム <http://www.dokitan.com>

町内の歴史や文化財に関する詳しい情報や、最新のイベントの情報などをお知らせしています。

蔵王町の歴史と文化財 どきたん通信 No.003

平成31年(2019年)3月発行 [不定期発行]

蔵王町教育委員会 生涯学習課 文化財保護係

〒989-0892 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦北10番地

蔵王町役場東庁舎 文化財整理室内

TEL 0224-33-2328 FAX 0224-33-3831

E-Mail info@dokitan.com WEB <http://www.dokitan.com>